

環境レポート 2014

ENVIRONMENTAL REPORT



世の中に役立つ新しい製品・サービスを創出し、 持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

弊社は、「人類文明の成長を支えるため、人財・創造性・科学技術を核として、事業を行い、その寄与度を高めるために成長する」ことを経営理念とし、世の中に役立つ新しい製品・サービスの提供に努めております。昨今、クリーンエネルギーや環境イノベーションにおいては、素材産業の果たすべき役割はますます大きくなってきております。今後さらに、地球環境保全に向けた社会的課題の解決のため、一層世の中に役立つ新しい製品・サービスを創出し、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。



昨年2013年4月には、グリーンケミカル事業における西日本エリアの拠点として、兵庫県淡路市に淡路工場を竣工し、操業を開始いたしました。淡路工場では、太陽光発電の導入をはじめ、ボイラー燃料のLNG化および緑化を図り、環境負荷の軽減に取り組むとともに、今後、クリーンエネルギー普及のキーデバイスとされる、リチウムイオン電池や電子材料(IC・FPD)製造工程で使用する溶剤を超高純度に再生・生産し、産業の環境負荷低減に努めております。昨今、弊社提供のエネルギー回生システム向けの電解液需要も高まっており、今後さらに開発力を高め、限られたエネルギー資源の有効利用へ、寄与を高めてまいります。

その実現には、株主様、地域の皆様、お客様、従業員、公官庁のみなさまのご理解を得ながら、環境融和を図り、みなさまと歩みを共にしてゆくことが、最も大切と考えております。そこで弊社では、工場周辺地域への環境負荷低減、メンタルヘルスを含めた日常作業の安全、災害時には迅速に対策を講じ、周辺環境と安定供給を保全できる仕組みづくり、化学物質の取り扱いや運送の管理などを強化しております。特に、化学産業において火災原因として最も多く、再現性の難しい静電気現象の解明については、専門の対策委員会を立ち上げ、専門家の方にも協力頂きながら原因究明を進め、その得られた知見を元に、対策を導入しております。今後さらに社員教育を徹底し近隣住民の皆様と社員の安全を確保してまいります。

引き続き、皆様に信頼される企業を目指し、環境負荷を低減しつつ、地球環境に寄与する高品質な製品の安全生産に努めてまいります。

どうかみなさまの一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2014年7月
東洋合成工業株式会社 代表取締役社長

木村 有仁

東洋合成工業株式会社は電子部品製造用材料の生産、調合香料用材料の生産、化学製品の生産に使う溶剤のリサイクル、液体石油化学品の省エネルギー物流等を通じて社会に貢献します。

私達はこの企業活動で地域社会が負う環境負荷が最も低く抑えられるよう努めます。会社の活動が地球環境の改善に貢献できるように指向します。

目標

環境保全と安全操業を経営の重要課題と位置付け、各事業所は内に向かっては「社員の安全と健康」を、外に向かっては「地域環境の保全」を念頭に企業活動を推進します。

法の遵守

環境保全の諸法令を遵守し、地域の住民の声にも耳を傾けるように全従業員に徹底します。

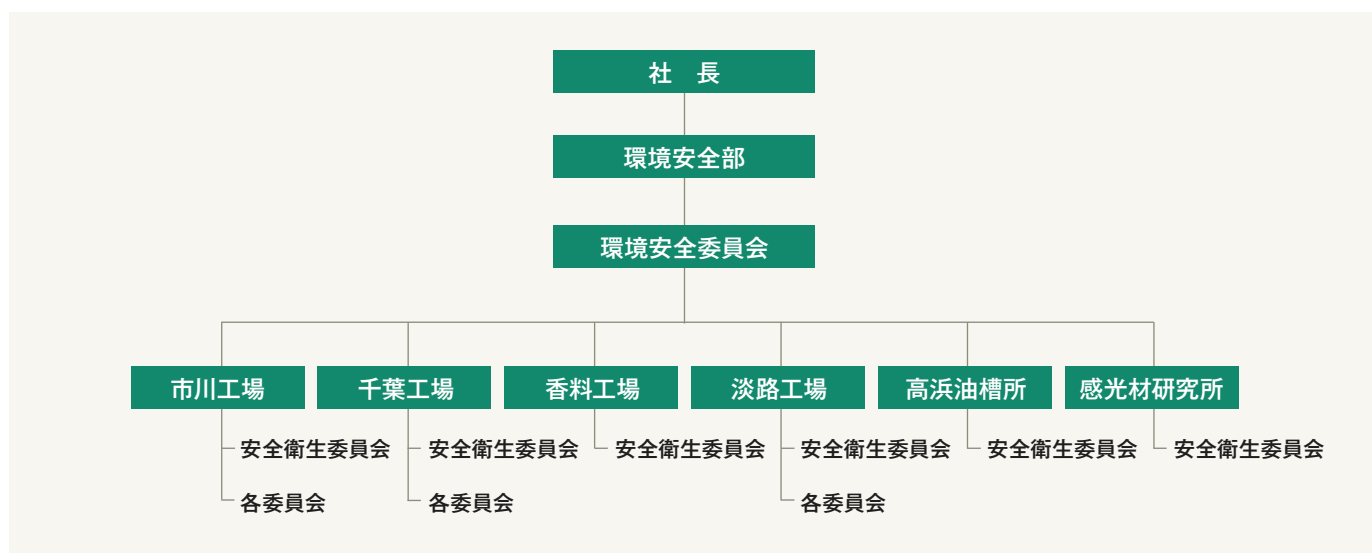
具体的な取り組み

- 1 生産活動の中で、大気、河川に放出する化学物質の低減を最優先課題とし、改善の長期計画を作成しそのプログラムに沿って毎年低減させます。また、環境への負荷、排出量を公表します。
- 2 蒸気、電力の消費を節減し、毎年生産される製品のエネルギー原単位の低減に努めます。
- 3 廃棄物の発生量削減と自社内での無害化処理を促進し、廃棄物の3R (Reduce、Reuse、Recycle)を推進します。
- 4 新規化学物質のみならず、国際的な既存化学物質の安全性見直しに適合するように、再評価を行います。
また、試験生産の段階より従業員の健康に及ぼす影響や、環境に及ぼす影響も評価し企業活動に反映させます。

東洋合成工業株式会社 代表取締役社長

木村 有仁

環境・安全管理の組織



市川工場

千葉県市川市上妙典1603番地

工場長 柳沢 篤



防火体制強化の取り組み

屋内、屋外消火栓による放水訓練や安全教育を計画的に行なって来ましたが、2013年11月21日に漏洩による火災を起こしてしまいました。近隣の皆様、関係の皆様にはご迷惑、ご心配をお掛けし、深くお詫び申し上げます。

再発を防止するため、関係部署と協議しながら安全対策を実施し、更なる安全対策、防火体制の強化を行ない、信頼回復に努める所存です。

OSHMSの定着

労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)を2006年度に導入して以来、確実に定着し2011年度、2012年度は、労災事故はゼロでしたが、2013年度は1件労災事故(4日間の休業災害)が発生しました。この事故は熱水による火傷でした。再発防止策を実施し、再び事故が発生しないように安全対策、安全教育を実施しました。

2013年度も安全意識高揚のため、各グループが順番に講師役になって行なう安全セミナーを技術グループの「配電盤における端子の点接触による危険性」を皮切りに、4回実施しました。毎回多数の参加者を迎え、実演をしながらの教育を行ないました。今期も同様に実施する予定です。

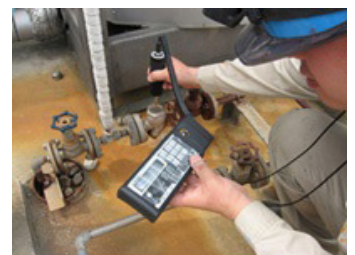


安全セミナー

省エネへの取り組み

市川工場は、第1種エネルギー管理指定工場であり、各種の省エネ対策に取り組んできました。

昨年度も圧縮空気、窒素、酸素、蒸気の漏れがないかリーク診断を行いました。その結果、68ヶ所を漏れ箇所を発見し、自主保全で修理することで大きなエネルギーロスを削減することができました。また、ドレン水の回収率を向上させる取り組みを行ない、ユーティリティコストを削減することもできました。



スチームトラップ診断器

臭気・VOCの排出削減

2006年より継続的に臭気・VOC低減対策に取り組んできています。

前期は、①臭気発生もとにフードの設置、②触媒燃焼装置の導入、を予定していました。①については実施し、回収した臭気ガスは既設の回収装置に接続する工事を行いました。②については必ずしも適切ではないことがわかり、別の方法に切替え、今期の継続案件として検討を進めることになりました。

千葉工場

千葉県香取郡東庄町宮野台1番51号

工場長 林 孝雄



安全操業の取り組み

成長の基盤は「安全操業・安定供給にある」との認識のもと、新規開発・新設備導入の初期流動管理、変更によるリスク評価を強化し、安全を最優先した取り組みを展開しています。

また千葉工場では化学消防車を配置し、自衛消防隊・自衛防災組織が万々に備え日頃より訓練を行っており、さまざまな安全活動を実施しています。

2014年度も協力業者と共に千葉工場全従業員一丸となって労働安全衛生の水準向上、事故の風化防止に取り組んでまいります。



自衛消防隊化学班 放水訓練



自衛消防隊放水班 放水訓練



消火ポンプ起動方法の説明会



安全週間 空気呼吸器装着訓練

リスクアセスメントの取り組み

他社化学工場の事故、千葉工場の過去の事故を教訓に静電気対策を重要視し、静電気安全専門家による静電気安全実地指導会や社内講習会を通して知識と不具合を発見する目を養い、リスクを再評価し対策の実施を行っています。

また近年の気象異常における自然災害（地震、豪雨、落雷、雪等）の緊急事態に対し、リスクアセスメントを実施しBCMSを活用し、工場の停止を最小限にする取り組みを進めています。



専門家による静電気安全実地指導会



安全啓蒙活動

労働安全衛生活動への取り組み

「災害の拡大防止」は迅速な緊急事態初動対応にあると定め、全員参加による定期的な訓練に加え、グループ毎の緊急事態対応訓練を実施し、緊急事態初動体制の構築に向け取り組んでいます。

また毎月、他事業所の参加者による安全パトロール、工場各グループによる相互パトロールを実施し、巡視のレベルアップ、不安全状態及び不安全行動の撲滅活動を進めています。



全員参加による緊急事態初動対応訓練



衛生週間 普通救命救急講習

地下水汚染防止の取り組み

2006年度より実施しているジオキサン地下水汚染防止対策結果、改善が確認されています。2014年度も引き続き、バリア井戸や河川等の監視を行うと共に、継続的な改善、防止対策に努めてまいります。

VOC大気排出量削減の取り組み

有機溶剤排気ガスをVOC燃焼設備により完全無害化を実施して参りましたが、定期点検により腐食が見つかり予防保全を含めた全面補修のため、長期間の稼働停止をした事で前年に比ベジオキサン大気排出量が増加しました。

現在は全面補修も完了し、腐食原因の管理を強化する事でVOC大気排出量の削減に向け稼働を再開しています。

またベンゼン大気排出量の更なる削減を目指して、既存のPSA装置に加え、2013年2月にKフィルター吸着処理装置を導入し、今後もベンゼン大気排出量削減に努めてまいります。



Kフィルター溶剤吸着処理装置



VOC燃焼設備

心の健康づくり推進の取り組み

メンタルヘルスの取り組みが重要視されている事から、2010年度より心の健康づくり推進をスタートし、2013年度は従業員を対象に職業性ストレス簡易調査、千葉環境安全衛生推進室が講師となり「ストレスに関する健康」講話、管理職を対象にした外部機関による「ラインケアセミナー」、産業医による「心の健康、体の健康」講話を開催しました。

2014年度も従業員とその家庭の幸福な生活、活気ある職場づくりのために積極的に取り組んでいきます。



外部機関による「ラインケアセミナー」



産業医による「心と体の健康講話」

高浜油槽所

千葉県市川市高浜町7番地

油槽所所長 鈴木 城治



1. 作業環境改善

① 作業環境改善

OSHMSのリスク低減とは別に、現場主体の意見を重視して、作業のし易さと安全性向上を目的にした提案を出してもらい作業改善をしました。従業員が自ら安全を考える意識も向上しています。更なる改善を目指し、今期も引き続き実行していきます。



ライン表示



液面計表示

② 見える化

『見える化委員会』を発足し、構内の有効な箇所に万一のミスを予防する目的で、表示を増やしました。従業員の作業性も向上し、また構内見学時にも美観が良いと好評です。

2. 安全啓蒙活動

毎月第3火曜日に開催している安全強化日のイベント企画を、従業員が考え実施していますが、本期は若手もアイデアを出して、計画し実行しました。運送会社の参加も定着し、更に荷主の参加も増えてきました。確実に各社の安全意識向上に繋がっています。

引き続き当社、荷主、運送会社3社合同で事故撲滅を目指します。



安全啓蒙（静電気の危険性）

3. リスクアセスメント

① 緊急シャワー増設

既に要所には緊急シャワーは設置済みですが、よりスピーディに対応するために緊急シャワーを増設しました。安心して作業ができています。

② 温度記録計アラーム遠隔化

計器室にはアラーム設備は設置済みですが、休日や夜間でも緊急事態に即対応可能なように、事務所と宿直室にもアラーム設備を増設しました。緊急時体制が万全になっています。

4. 安全対策（セキュリティ）

録画機能付きの監視カメラを全栈橋3箇所と全入出門をカバーできる位置に増設しました。事故の抑制とトラブルの原因究明及び再発防止対策に役立っています。



セキュリティ対策



監視カメラ

5. 品質管理

顧客満足度向上の一環として、全出荷配管にストレーナー設備の設置が完了しました。3ヵ年計画で、当油槽所の標準装備を目指してきたもので、充填時の異物混入が予防できます。

6. 護岸の耐震補強対策

東日本大震災で被害は受けてはませんが、自主的に当油槽所全ての護岸沿いの耐震補強対策を実施しました。これと同クラスの地震が発生した場合でも、大きな被害を受けず早期に通常操業の再開が可能です。



護岸補強工事

7. 大雪対応

顧客最大の迷惑を撲滅するために掲げた目標の一つである『油槽所を絶対止めない』を、2度の大雪の時に、高浜油槽所得意の高い意識で達成しました。同業他社は、荷役中止や操業遅延に陥る中、当油槽所は顧客に迷惑をかけることなく、高いレベルの目標を達成し、顧客満足度向上に繋げて東洋合成ファンを増やすことに貢献できました。



除雪対応

感光材研究所

千葉県印西市若萩4丁目2番1

研究所所長 森 寧



1. 周囲の環境に溶け込む研究所

敷地北側からはすぐに里山が望まれ、南側には静かな住宅街がひろがる感光材研究所。恵まれた自然を大切に、そして近隣の皆様に安心していただける環境の維持に留意して、研究開発に取り組んでいます。棟内の実験室では技術の高度化・産業エネルギー消費の漸減を目指す先端的研究開発が常に行われていますが、研究所の佇まいは静か。広い敷地に整えられた、植栽の維持管理にも細心の注意を払っています。

気候の年間変動や国際的資源環境の大きな変化・不確定性のなか、エネルギー・資源の利用についてさまざまなオプションを持つことは人々の暮らしの安定と福祉のためにも大切なことです。われわれ化学研究に携わる者は、地球環境と生物の安全のため、よりよい解を製品・知財の形で世に問うのはもちろん、自らの足許の環境についてもとくに注意を払う責務を負っております。

当研究所では2011年に省エネ型空調設備・省エネ型照明などを導入し、電力使用量を大幅に削減しました。水道使用量、可燃ごみの排出量も大きく低減させ、研究所の規模に比して低い数値を保っています。



感光材研究所 外観

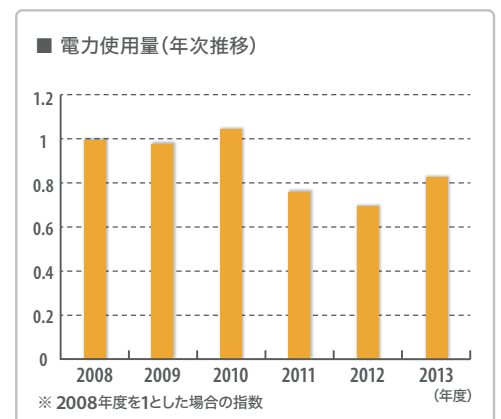
① 電力使用量の削減

2012年度の電力使用量は2008年度と比較して27%削減されました。そのように全体的な削減傾向は維持していますが、2013年度は年間電力総使用量で、前年度を約12%上回りました。

精査しますと、昨冬の寒さの厳しさ、2月の豪雪が影響して冬期の電力使用が増大したこと及び同じ時期に研究開発活動の活発化による機器使用台数・時間が増えたことが原因と見られます。ただし、やはり暑かった夏期のピーク時には前年比減を達成しています。

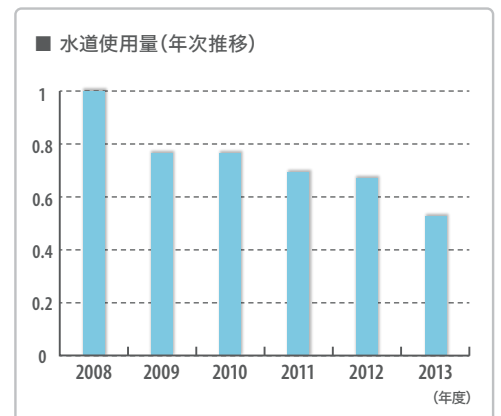
現在、研究所の活発な研究開発活動を支える試験機器、空調装置等をすべてリスト化し、稼働時間の調整などで研究活動と省電力を今後も両立させていくため、具体的な対策・運営方法を検討しています。

そうした経験と知見の集積を通して、引き続き、社会全体のエネルギー基盤を意識した研究所運営に努めてまいります。



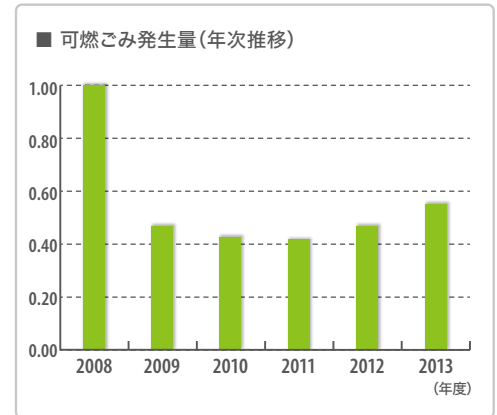
② 水道水使用量の削減

水道使用量については、前年度よりさらに2割の削減を実現しました。削減活動には2009年度から意識を強めて取り組んでおり、すでに相当程度絞り込みましたが、昨年度は試験研究に必要な冷却用水に循環装置を一部導入するなどの工夫をいたしました。効果を定量的に検証しながら、引き続き合理的な水利利用を目指していきます。



③ 可燃ごみの削減

2009年度からゴミ削減活動を開始しましたが、3年間の活動で2008年度比、59%削減しています。昨年度は、研究所の人員増・研究活動の活発化にもかかわらず、ゴミの量の増加を微増に留めることができました。



2. 安全衛生への取り組み

工場での生産に繋がっていく試験研究の段階から、使用物質の適切な取り扱いが全社的な高い基準となっていくよう、教育に意を用いています。

所員の定期健康診断を実施し、安全・衛生の文化を重視した研究活動を進めています。

労働災害事故は昨年度もゼロでした。

3. 地域との交流

近隣の「いにはの小学校」に朝日写真ニュースを寄贈しています。研究所テニス部のコートが隣接する公園の公設テニスコートに近いこともあり、休み時間や休日にも地域との交流が生まれています。

地元の学区とも協力して「子ども110番」に事業所として参加しています。

香料工場

千葉県香取郡東庄町宮野台1番58号

工場長 田村 鉄男



労働安全衛生活動

2012年6月より操業開始して2年が経過したまだ新しい工場です。操業当初より環境安全活動に力を注いでまいりました。

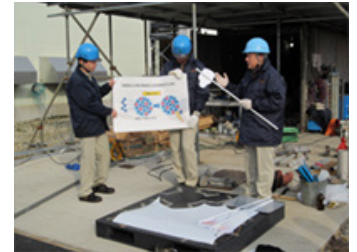
また、品質マネジメント(ISO9001)環境マネジメント(ISO14001)及びHACCP、KOSHERの適合認証を取得し活動を継続維持しつつ、安全衛生管理を強化し5S活動やKYTを通じてシステム向上に努め労働災害ゼロを目指しています。

取り組みの中でも「安全を優先」するにおいては、半期に一度工場に措ける防災訓練や安全啓蒙活動、安全パトロール、リスクアセスメント、静電気教育を実施し、日化協ベストプラクティス集を参考に労働災害トラブルカレンダーを事例集として年間を通じて教育にも活用していきます。

その他、工場外での環境整備の一環として一斉清掃活動も実施しています。



防災訓練



安全啓蒙活動



清掃活動

省エネの取り組み

生産における省資源の推進として、原料原単位の改善で工程ロスを最小限にし、収率向上に取り組み、その他には電気、燃料、工程時間短縮によるユーティリティコスト削減を図り、物質収支改善に積極的に取り組み且つ、取得量の向上を進め省エネ活動に取り組んでいきます。

臭気・VOC大気排出量削減の取り組み

工場で生産する香料材料が主製品であり、臭気がフルティーな香りとフローラルな香りがあります、これらの香りもひとたび外部に排出されると異臭と認知され、嫌悪感を持たれます。香料工場ではタンクや製造工程から発生する臭気に対し、冷却器を備えた脱臭装置(PSA)で集中捕集し、臭気拡散防止を図っています。臭気点検として臭気パトロールを定期的の実施し臭気拡散防止に努めています。



PSA

排水汚濁防止の取り組み

香料工場放流排水の水質基準の遵守で、工場内にある調整池(4,000m³)の貯水槽に排水し水質基準(pH・BOD・TOC)を管理する事により、適正範囲にある事を確認後河川に放流をしています。廃液に関しては外部処理業者に委託し、産業廃棄物発生量の抑制と再資源化も同様に実施しています。



香料工場調整池

淡路工場

兵庫県淡路市生穂新島9番1

工場長 佐々木 広幸



新工場操業開始への取り組み

兵庫県淡路島の大阪湾に面した淡路工場は、2012年より着工し2013年3月完成、4月より操業を開始しました。淡路工場の従業員は若い人が多く、好奇心旺盛で何事にも全力で取り組み、個人のスキルを向上しようと日々努力しています。工場操業前の4月10日に所轄消防組合と合同で総合防災訓練を実施し、消火活動に合わせて津波対策として防潮堤の構築訓練も実施することで防災体制を確立しました。法的要求事項ではありませんが、安全衛生委員会を発足して、毎月会議を開催し安全パトロールの実施報告、ヒヤリハット報告、リスクアセスメント報告を実施し、常に安全操業を目指しています。衛生面では、新規取り扱い物質の教育実施や産業医の面談を実施し心身のケアもしています。工場の運営管理体制として、品質マネジメントシステム（ISO9001）は2014年1月、環境マネジメントシステム（ISO14001）も同年3月に認証取得しております。



淡路工場正面玄関



合同総合防災訓練

（このブロックは上記の段落の一部を重複して表示されています）

省エネの取り組み

電気に関しては太陽光発電を採用して、ソーラーパネル(10kW×2基)を導入することにより、電力使用量の削減に取り組んでいます。また、電気使用量のトレンド管理により、無駄な使用が無い監視したり、電気の効率的な使用をすることで、電気使用量の削減に努力しています。また、熱に関してはボイラーで発生した蒸気の使用後のドレン水を、90%以上の高回収率で給水タンクへ戻して熱損失を最低限にしています。工程時間の短縮や設備能力の効率的な使用で省エネに取り組んでいます。



ソーラーパネル

臭気・VOC削減の取り組み

臭気・VOC対策として製造設備、タンクヤードの排出ガスは直接大気に放出せず、湿式のスクラバーにて処理してから大気へ放出しています。また、屋内充填所の室内換気ガスは、乾式のスクラバー（吸着式）を設置して、処理後に大気へ放出しています。屋外タンクに関しては、ベーパーリターン装置の設置と、外気の影響による温度の上昇を防止するため、断熱材でタンクを遮熱しています。また、夏季はタンク内の液温度を基準値以下に維持するために、チラー水で冷却しタンクからのベーパーでのロス削減対策も講じています。



湿式スクラバー

排水の負荷低減

淡路工場では、生産から発生するプロセス排水は淡路市の下水処理場に、排水基準としてBOD、pHを厳守して排出しています。雨水に関してはプロセス排水とは混合しないように分離して、雨水ピットに一時保管しpHとNPOCを分析し、排水基準をクリアしていることを確認してから大阪湾に放流しています。

高負荷排水は外注処理業者へ委託予定になっていますが、分別化することにより昨年度の実績はありませんでした。

大気・水質

大気に対する負荷

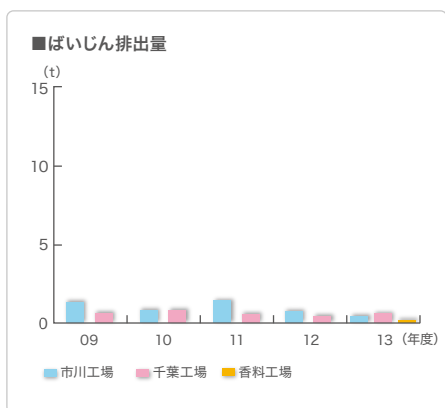
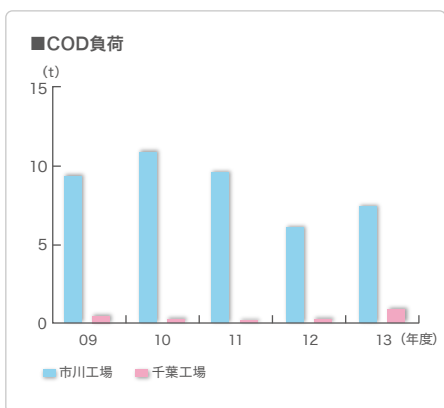
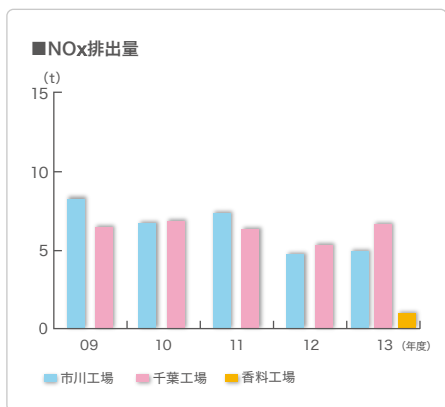
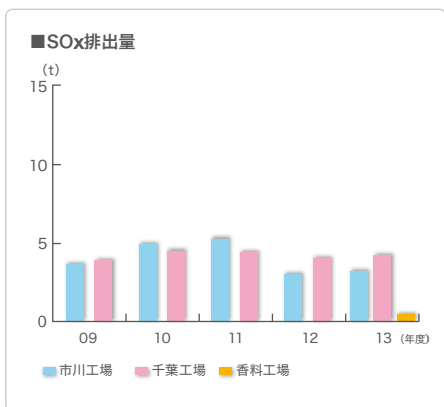
市川工場は、エネルギー使用量が約15%減少しましたが、SOxは前年度比約9%の増加となりました。SOxの排出は、燃料使用量と硫黄含有量に影響されますが、使用した燃料の硫黄分が前年度に比較し、高くなったことにより増加しています。

千葉工場は、生産量の増加に伴い、燃料使用量も増加し、SOxが、約9%の増加となりました。

水質に対する負荷

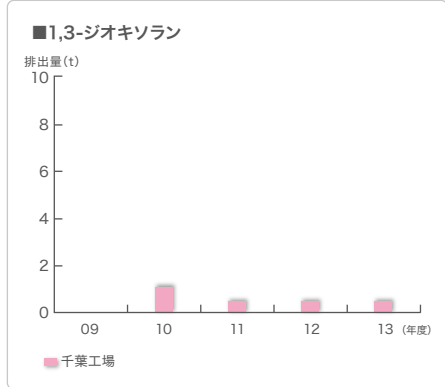
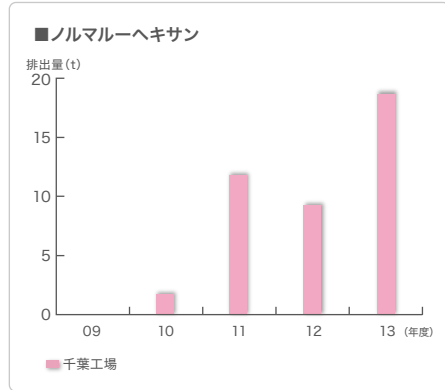
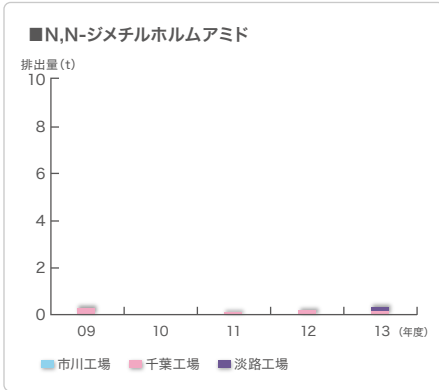
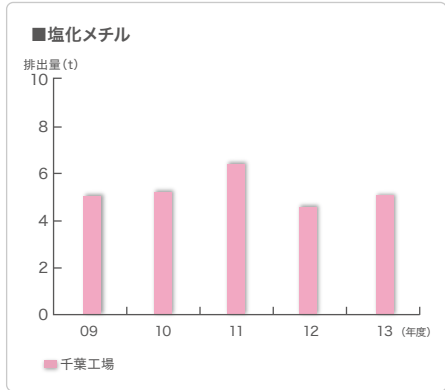
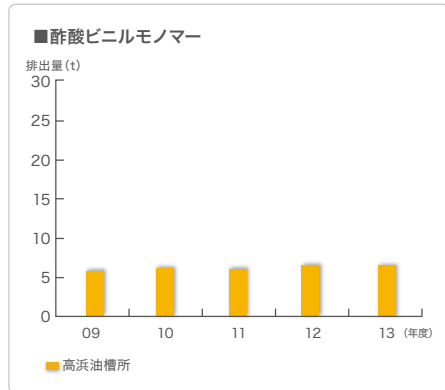
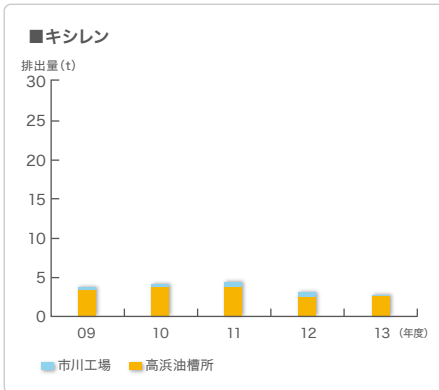
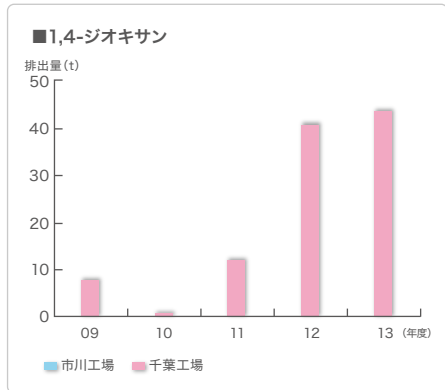
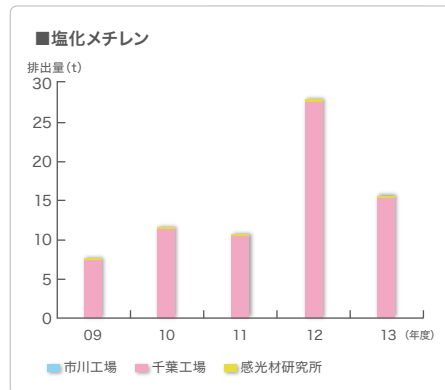
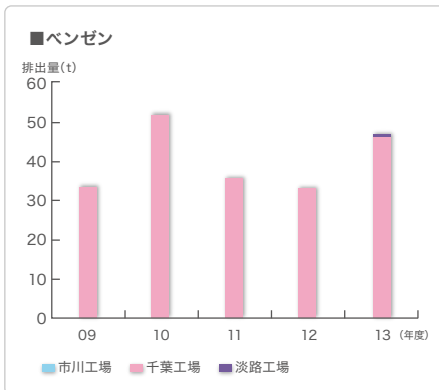
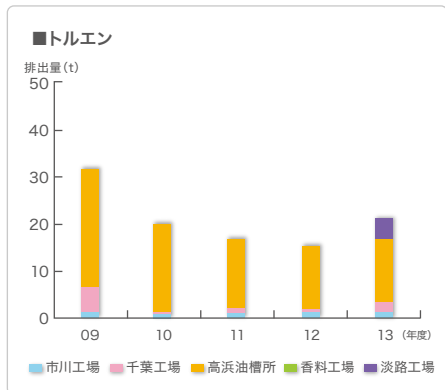
市川工場では、排水量は減少しましたが、COD負荷は14%増加しました。廃棄物として外部処理していたものから選別し、自社廃水処理場で処理することを進めることで、廃棄物の減量化に貢献しています。

市川工場同様、千葉工場でも、昨年TOC計(全有機体炭素計)を導入し、排水処理管理を強化しています。その結果、安定した処理状態を維持しています。

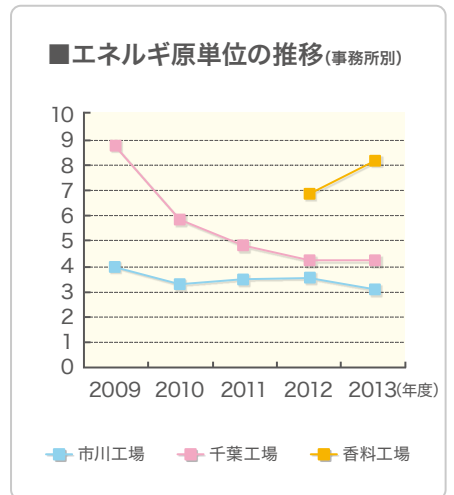
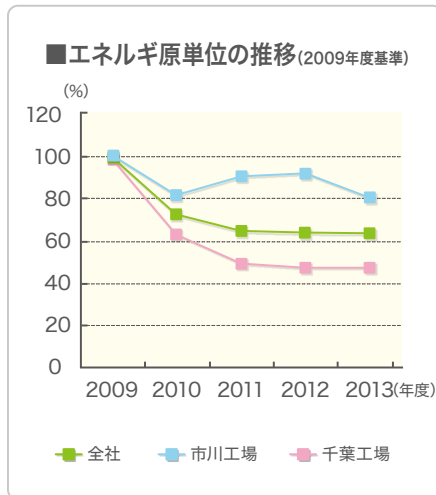
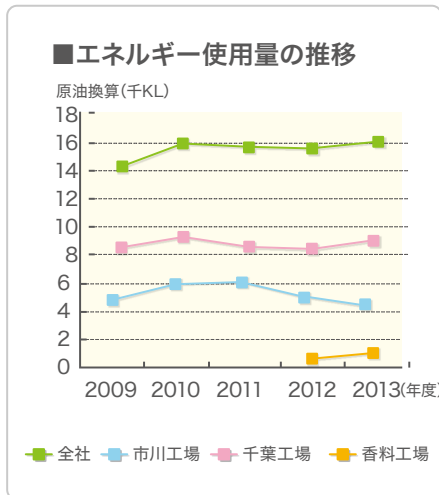


PRTR

塩化メチレンは、取扱量の減少により、大気排出量は減少しました。1,4-ジオキサンは約6%の増加となりました。VOC燃焼設備の腐食による長期停止の影響がでたものです。今年度、VOC燃焼設備によらない処理方法について、検討を開始しています。ベンゼンも増加となりました。回収のため導入した、Kフィルター吸着処理装置において、腐食によるトラブルが発生しました。使用部品の材質を変更し、点検頻度を増して、稼動を継続しています。今年度は、安定的に稼働させ、排出量を削減していきます。



エネルギー



エネルギー使用量および原単位の推移

全社のエネルギー使用量は、前年度比3.5%の増加となりました。市川工場は減少しましたが、千葉工場及び香料工場の使用量増加と淡路工場の立上りにより、全体としては増加となりました。

エネルギー使用量としては、市川工場、千葉工場で、全社の84%となっています。新工場の香料工場と淡路工場は12%の使用量となっています。香料工場は、2013年度のエネルギー使用量が1500kl以上となったことより、第二種エネルギー管理指定工場となります。市川工場、千葉工場同様、エネルギーロスの削減を行い、省エネルギーを推進してまいります。

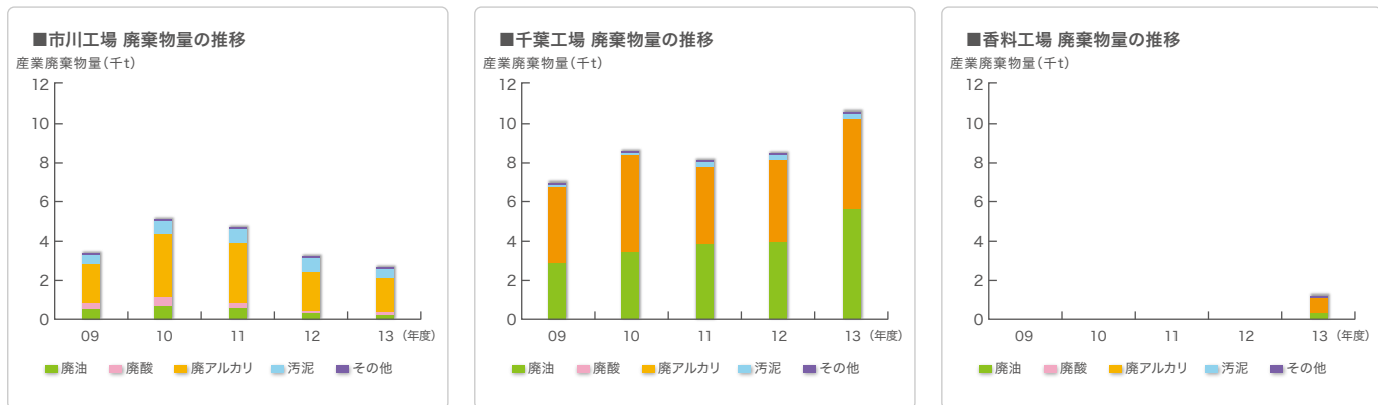
千葉工場は、生産量は増加しましたが、原単位は前年度並みとなりました。市川工場は、生産量は前年度並みでしたが、原単位は約14%低減しました。全停日を設け、効率的な生産を実施したことと、香料工場に生産品種の一部を移行したことにより、生産品目の構成が変化したことによります。

廃棄物および再資源化

廃棄物の取り組み

市川工場の廃棄物は、前年度比約14%の減少となりました。生産量の減少が影響していますが、廃油の燃料化や、廃液の分別化により、自社廃水処理施設での処理を進めることで、産業廃棄物の削減に努めています。

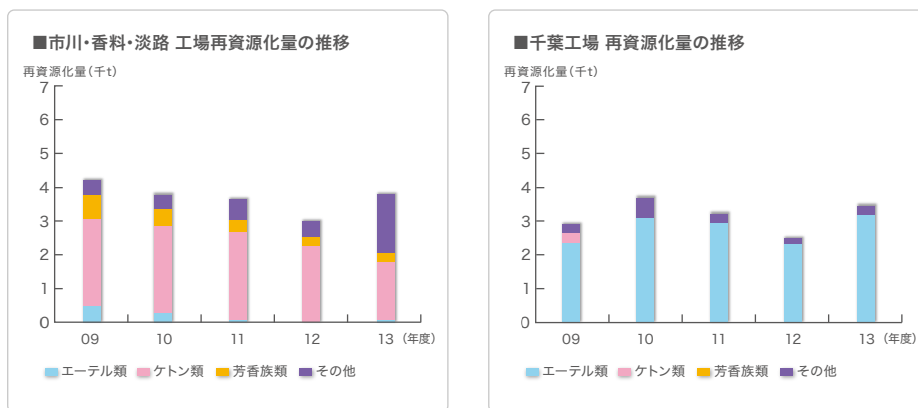
千葉工場の廃棄物は、前年度比24%の増加となりました。廃油が40%の増加、廃アルカリが13%増加したためです。この要因として、多様な溶剤を使用する製品が、増加しているためです。千葉工場では、溶剤回収プロジェクトを立ち上げ、課題を明確にして、減量化の検討を進めていきます。



再資源化の取り組み

市川工場の再資源化量は、前年度並みとなりました。香料工場、淡路工場の操業に伴い、各事業所間で連携し、溶剤の再資源化を進めています。3工場合計では、前年度比26%の増加となりました。

千葉工場では、工場内で使用した廃溶剤を蒸留精製し、再資源化を行っています。2013年度は、生産量の増加に伴い、37%増加となりました。再資源化率も98%以上と、高い回収率で推移しています。



安全活動

外部講師による教育

社外の先進的な安全知識を積極的に取り入れるために社外の専門家による講習を行いました。



他社講師による安全講和



専門家による静電気安全講習

静電気技術指導

産業安全技術協会に依頼して静電気安全に関する現場技術指導を実施しました。



栈橋上の導電性測定



タンク上部作業の静電気安全技術指導

社内 安全監査、安全パトロール

事業所、部門を超えて他者の目で作業現場の安全を確認しています。



本社環境安全部による安全監査



事業所間相互安全パトロール

新入社員教育

危険物を扱う当社社員に必要な安全知識を配属先に関わらず全員に教育しています。



保全係によるバックインの取扱い教育



消火設備に関する教育

安全啓蒙活動

高浜油槽所発祥のボトムアップによる安全活動です。作業員自身が学び、講師となって仲間に、わかりやすく工夫をして安全を訴える活動を全社で行っています。

市川工場



電気の基礎・トラブル事例



溶解熱・中和熱の危険性



静電気の見える化

千葉工場



フォークリフトの危険性



禁水物質の危険性



静電気の危険性

香料工場



静電気の危険性

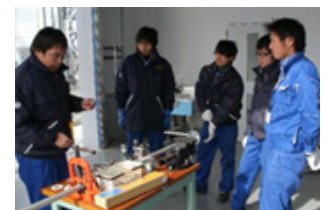


レスキューボード&AED



レスキューボード&AED

淡路工場



ボルト、ナット締め方教育



ボルト、ナット締め方教育

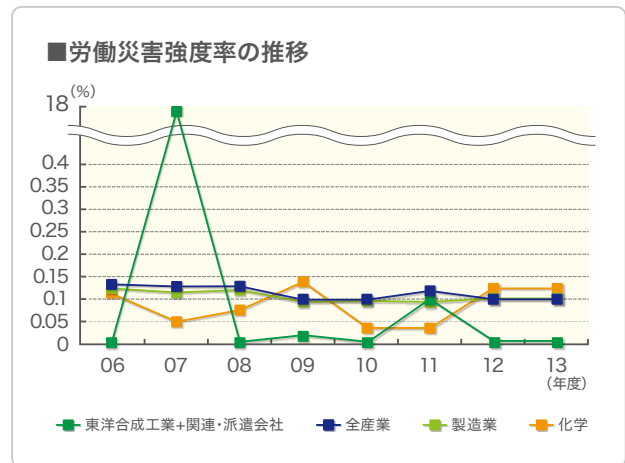
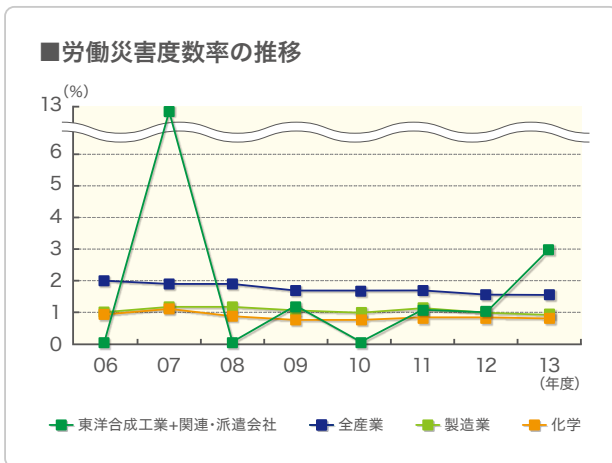


ボルト、ナット締め方教育

労働災害度数率・強度率の推移

当社は、無事故・無災害を目標に、設備の安全対策、安全運転、安全教育はもとより、設備の保守・修繕の徹底を図り、労働災害の発生防止に積極的に取り組んでいます。

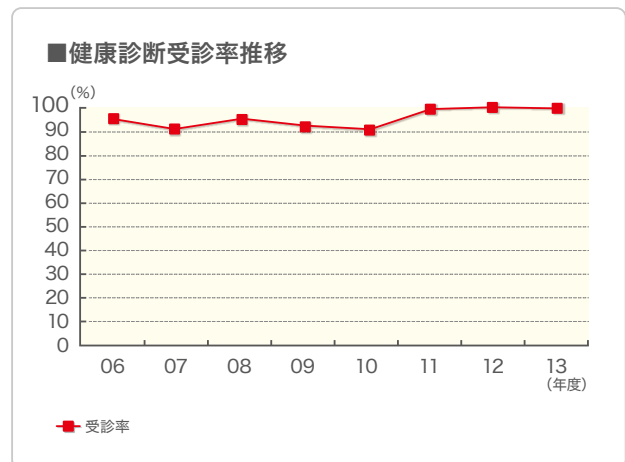
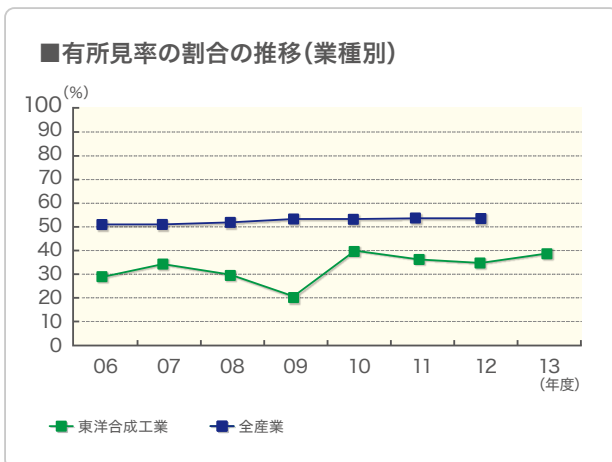
また、当社の業務に従事する関連会社の社員においても、当社と一体となり、常に強度率・度数率ともにゼロを目指して、全社的に取り組んでいます。



健康管理

昨年に引き続き、健康診断の受診率100%達成に向けて、各事業所での法定健診を受診できなかった社員に対し、個別に別日程で受診するよう推進してまいりましたが、本年の受診率は昨年に比べ0.5%減少し99.3%となりました。

また、有所見率については昨年までは減少傾向にありましたが、本年は4.5%増加し39.4%となりました。昨年に比べ、受診率の低下ならびに有所見率の上昇傾向が見受けられましたので、更なる法定受診の徹底を図るとともに、有所見者に対する産業医指導とフォローを推進していきます。



韓国、化学物質管理の状況

2013年4月30日、韓国で化学物質の登録及び評価に関する法(以下 化評法)が可決され、5月22日に正式に採択、公布されました。本法は、欧州連合(EU)のREACH規則(Registration (登録), Evaluation (評価), Authorization (認可) and Restriction (制限) of Chemicals)にちなんで、韓国版REACH(K-REACH)とも呼ばれています。

化評法の主目的は、登録と有害性評価の対象を既存化学物質まで拡大することにより、より包括的な化学物質管理システムを構築することです。2015年1月1日に施行される本法により、化学物質を製造、輸入、もしくは販売する事業者に多くの義務が課されることになります。

化評法の施行にあたっての詳細は、今後公布される下位法令によって定められる予定となっており、現時点では、年次届出の様式や提出期限、登録の対象となる既存化学物質を決定するための判断基準等、多くの詳細が未確定です。

当社では、今後、韓国への輸出において不備を生じないよう、同法の詳細を見据えて、規制に対応できる管理体制作りに取り組んでいます。また、韓国に限らず、世界を視野に入れた化学物質管理を推進することで、時間と共に変化する規制に適応した環境に優しい、輸出・開発・製造・販売等、一連の事業運営を実現します。



化学品貿易管理

我が国をはじめとする主要国では、武器や軍事転用可能な貨物・技術が、我が国及び国際社会の安全性を脅かす国家やテロリスト等、懸念活動を行うおそれのある者に渡ることを防ぐため、先進国を中心とした国際的な枠組み(国際輸出管理レジーム)を作り、国際社会と協調して輸出等の管理を行っています。

我が国においては、この安全保障の観点に立った貿易管理の取り組みを、外為法に基づき実施しています。弊社におきましても、社内規定として安全保障輸出管理規定を定め、全ての輸出製品について該非判定を実施し、その管理体制を明確にしております。



一方、輸入原料についても関係する法規制の該非判定を実施し、適正な手続きを行った上で事業活動を進めてまいります。

地域内清掃活動

今年も千葉工場では、夏季および冬季休暇前に工場外周の清掃活動を実施しました。



夏季千葉工場清掃活動

写真ニュースの寄贈

弊社では、市川工場近隣の2校、千葉工場近隣の2校及び感光材研究所近隣の1校に、継続して写真ニュースを寄贈する活動をしています。今年も学校より、感謝のしがきを頂きました。今後も少しでもお役に立てればと考えています。

東庄ふれあい祭り

社員の自主的な活動で「東庄ふれあい祭り」に参加しました。今回で、連続10回目の参加となりました。



当日の様子



参加メンバー